



教育 おおらか・さわやか・きわやかな大崎の教育

問 教育委員会管理課 ☎476-1111(410)

◆平成 27 年度曾於地区へき地・小規模校教育連絡協議会委嘱研究公開

12月8日(火)に、野方小学校で『自ら学び、生き生きと活動しながら共に伸びようとする子どもの育成』を研究主題に標記の会が開催されました。大崎町、志布志市、曾於市を中心に大隅地域から50名を超える教職員が参加しました。

多くのへき地校・小規模校を抱える大隅地域でも、児童生徒の学力向上や生徒指導の充実、体力向上は学校が抱える大きな課題であり、どの学校も、このような学校課題の解決に向け、日々研究・実践に取り組んでいます。野方小学校でも、1年生の算数の授業公開と研究発表が行われ、へき地・小規模校の良さを生かした授業実践や日々の取り組みが紹介されました。



野方小学校の実践は、児童生徒一人ひとりの学力や体力、生きる力を高めるために有効な指導の在り方の一つとして紹介されました。今後も大崎町教育委員会として、大崎町の児童生徒の学力向上や体力向上、基本的な生活習慣の確立に向け、学校と連携を図ってまいります。

◆おめでとうございます！【平成 27 年度優秀教職員表彰】

文部科学省優秀教職員表彰受賞 大崎小学校 松山 美香 教諭
鹿児島県優秀教職員表彰受賞 野方小学校 前平 勝巳 教諭

まびの窓おしえの庭

『プロとしての心構え』

No.35 大崎小学校 校長 加納 雅裕

私の社会人、教師としての心構えを作ってくれた心に残る言葉がある。今から40年前、大学時代のことであるが、今でも鮮明に残っている。

大学の頃、単位に余裕ができ、いろいろなアルバイトを体験した。そのひとつに、塗装業を営む個人経営の業者のもと、新築の家の外壁吹きつけ作業のアルバイトをしていた。担当の仕事としては、ガラスや窓枠等にペンキがつかないようにカバーするマスキング作業である。最初は時間がかかったが、慣れてくると短時間で済ませることができるようになった。ある日、早く終わらせようと、いい加減な作業をしてしまったときに親方から叱責の言葉をもらったのである。「我々のような業者やお前たちのようなバイト生には、何百軒のうちの軒にすぎないかもしれない。でも、家主にとっては一生に軒建てられるかどうかの大切な軒なんだぞ。仕事する以上は、そんな客の気持ちを忘れてはいかん。それに相手はプロの仕事と受け取っているんだ。バイトであってもお金をもらう以上は、仕事にはプロとしての責任とプライドをもたなければならないんだぞ。」

アルバイトとしての意識しかなく、そこまで考えが及ばなかった自分が恥ずかしく、深く反省させられた。その後は『プロとしての心構え』を忘れず丁寧な仕事に努めた。

この言葉は、教師になってもずっと忘れることなく、肝に銘じて責任とプライドをもって仕事をしてきたつもりだ。

昨年末、子どもたちには、冬休みに家では『お手伝い』をするのではなく、家族の一員として『仕事』をするように話した。休み明けに「仕事を頑張りました。」と話してくれた子もいて嬉しく思っている。

親には、子どもたちに仕事に対する心構えを身に付けさせてほしいと願っている。将来、我が子がどんな職業に就いても、プロとしての責任とプライドをもって仕事に臨めるように、小さなうちから子どもに任せるものを決め、責任をもってさせるように、叱ったり褒めたりしながら達成感や満足感を感じさせてほしいのである。